

6.3 教育方法のあり方

進捗状況報告

教育方法に関する教員相互の具体的な情報交換は「情報処理基礎」「人文演習」など個別の科目単位で、あるいは各専修単位や個別の教員間で行われている。また、学生による授業評価の結果をより有効に活用するために、様々な科目を対象として、カリキュラム委員会やFD委員会を中心に、教育効果を高めるような教育方法のあり方について、継続して検討を重ねている。

教室などのインフラについては、徐々に整備されてきている。特に2007年夏には全学の情報システムが変更予定であるため、情報環境委員会を中心に、より効率的・効果的な講義・演習を行うための運用方法を検討していく。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

キリスト教科目運営委員会・言語教育科目運営委員会・情報処理科目運営委員会・総合科目運営委員会・広領域運営委員会・FD委員会・言語教育検討委員会等における協議内容は、これらを統括するカリキュラム委員会で検討され、さらには学部委員会や教授会において議論される。また、それらの委員会とは別に人文演習担当者連絡会議が組織され、そこでの協議内容も、カリキュラム委員会さらには学部委員会や教授会において議に付される。さらに、情報環境委員会が置かれ、文学部におけるIT環境の整備に関し、学部長に進言を行っている。教育方法や情報環境に関する議論や情報交換は、こうした組織化された各委員会における検討を経て、各教員にフィードバックされている。

学内第三者評価

さまざまな形で教育方法に関する教員相互の具体的な情報交換が行われていることが評価できる。さらに、個別的な情報交換に加えて、学部全体としての情報交換とフィードバックの方策をより明確に示すことが期待される。また、学生による授業評価の結果がより有効に活用される方策の検討が期待される。